

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103792		
法人名	有限会社 エムアイティエス		
事業所名	藹藹グループホーム		
所在地	岡山県岡山市北区神田町2丁目8-32		
自己評価作成日	平成25年 1月 9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成26年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リスク検討、身体拘束、感染症対策、災害対策、介護の委員会を毎月行い、入居者・家族・職員らの悩みや疑問等を早急に解決できるよう、今すべき課題に取り組んでいる。各ユニットでのイベントは、入居者の希望・期待に答えられるよう日々の観察から察知し、共に準備などを行うことによって楽しめる時間を多く持てるよう工夫をしている。全体での行事は、年4回程度として家族負担の軽減などを考えつつ盛大に行えるようにメリハリをつけるようにしている。また、職員は個々のスキルを上げるために内、外部研修に率先して参加するようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の病院と隣接しているため医師並びに看護師が常時対応ができます。そのため看取りを希望する入居者・家族も多く、安心に繋がっています。職員間の関係がよく職員同士協力して支援に努めています。入居者の表情も穏やかで和やかな雰囲気を感じられました。3ユニットあり、夜間の緊急時や災害時の避難誘導等協力して行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生きている限り人間らしく」の理念を事務所等の見えやすい所に掲示し、日々働く上で意識できるようにしている	利用者の自分で解決する力を引き出すようにし毎月、目標を立て、理念を忘れることなく関わりに反映させています。	法人全体の理念の下、地域密着型サービスの意義をふまえた理念を全職員で考え、実践に繋げていかれる事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	初詣、夏・秋祭りへの参加、町内美化の協力もするようにしている。保育園児の訪問や当ホームでの行事への参加を呼び掛けるようにしている。また、地域の方にも積極的に挨拶をするようにしている。中学生などの職場体験も行いたい	一階のフロアを一般開放しており、地域の方が週一回、踊りの練習に来ているのを入居者と一緒に見学したり地域との交流に努めています。	中学生の職場体験に向け取り組まれる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において施設の概要・取り組み、認知症の方への接し方・感染症など説明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度町内会長・民生委員・地域包括支援センター担当職員・施設職員等で行っている。議題としては、施設サービスの実情、地域への参入、介護についての疑問など	老人クラブや理美容の方も参加し、町内の方々の質問等に地域包括支援センターの担当者が応えてくれたり、地域の情報などを得ながらサービスに活かす様図っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では包括支援センターの担当者にサービスの実情など報告し、事業者指導課などの市の職員の方々に色々な情報を聞いている	担当者とはよく連絡を取り合い、実情の報告や情報を聴かせてもらいながら、協力関係を築くようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、委員会を中心に様々な事例(入居者の入れ替わり・周辺症状への対応など)を基にして各ユニットなどで検討し取り組んでいる	毎月委員会で勉強会を行い、事例検討を通してどのようなことが拘束になるのか学んでいます。経験の浅い職員には先輩職員が指導し、また気づきを共有して疑問を持つことを心がけています。	身体拘束について様々な事例をもとに職員同士で学び、また医療に関わるケアは医師、看護師から指導してもらって身体拘束をしないケアに取り組まれる事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・リスク検討委員会を中心にどういったことが虐待であるか？また、どのような対応を行えば良いか？また、介護職員のストレスチェックを行うようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について学ぶ機会は少ないが仕組みなどの説明書類ができており職員全員理解するように取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書などを項目ごとに読み上げ、説明している。また、理解しにくい場合は例をあげ説明して理解を得ただけに行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に年2回程度アンケートを送付し回答をいただき運営推進会議などで検討発表したり、御意見箱を各ユニットごとに設置しての対策・検討、また説明書など希望があれば見ていただけられるようにしている	家族に入居者の事を報告する時に声掛けをし、希望や要望が話しやすい雰囲気づくりに努めています。 消耗品の購入などは、家族と話し合って希望に添える様取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員への意見調査アンケートを実施(年2回)、面談など行い、提案や不満要因など改善できる箇所は随時検討できるようにしている	アンケートや面談等で職員の意見等は聞く機会になり、風呂のテスリ、勤務時間の微調整等が改善されています。施設長が介護職と一緒に経験されているので、職員はいつでも意見等が言いやすい雰囲気がありました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回昇給、年2回賞与、その他手当の支給。自己評価、リーダー評価などの記録をし、各職員自己アピールできるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な委員会を設置し、勉強会、研修会等の時間を設けながらレベルアップ向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、GH協会などの集まりの時にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者にはGHの見学を勧めて十分な話し合いを行う。また、入居前のアセスメント(居宅・病院・家族などへのヒアリング)の徹底に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントを徹底して行き様々な不安や要望を聞きながら信頼関係の向上に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントを参考にし、希望や要望を見極め対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事・洗濯・掃除・裁縫・畑での野菜作り・花の育て方など個人個人が好んでされることや長けていることを一歩下がって本人が、主役になれるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月初めに日頃の様子やADL面などを書面でお伝えし、協力してもらいたいこと等も伝えている。訪問の際には積極的に話をするようにし信頼関係の構築を目指している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	懐かしい写真、アルバム等の活用。また、御友人の方の面会の支援。町内の方々は子供の頃に遊ばれていた神社などの散歩	馴染みの理美容店や家族が経営するラーメン店に行くなど地域との繋がりが途切れない様努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係が円滑にいくように、席の配置換えやレクリエーション参加時の配慮をしている。また、何でも職員が介助せず助け合える場はそっと見守る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などでやむを得ず退居された場合であっても相談を受けれる体制、説明をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の希望は可能な限り意見を聞き意向に添えるよう日々の観察での気づきの記録やカンファレンスなど行っている	日々の様子から本人の意向の把握に努め、家族に毎月様子を手紙で知らせ、急な体調変化があった場合は、その都度家族に電話するなどその人らしい暮らしの支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報を参考にすると共に、随時本人・家族や居宅・病院関係者等から情報をいただき、サービスの適正化などカンファレンスなどで検討している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を身体・精神面でチェックし個人の観察記録や気づきノートに残し、必要時にはデータを集計できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの希望、要望を聞くと共に独り言ノート等気付いたことを職員が記録しカンファレンスを行う。意思決定が困難な方に対しては日頃の様子や家族の意向を聞いたりして作成	介護計画は定期的に見直す以外に、本人に必要なことが生じる度に変更して、本人・家族の希望に添った介護計画の作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の様子や本人の発した言葉、職員の対応など個人記録に記入し、1ヵ月毎にモニタリングを行う。また、スタッフ会議やカンファレンスなどで見直し材料として活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に個別ケアが行えるよう家族に説明、協力要請している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内公園、スーパー、後樂園などへの外出を行い町並みを感じることで楽しんでもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携としてGHIに隣接している黒田病院(内科・整形外科)が主体で診察していただいている。緊急時は、岡山赤十字病院に協力をしていただく	ほとんどの利用者が母体の黒田病院がかかりつけ医になっており、24時間対応が可能です。協力医の歯科の往診もあり、適切な医療が受けられるよう支援出来ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回定期的に看護師が入居者の状態を診に来ている。また、その他でも適宜相談・助言をしてもらい必要時受診する		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護添書を提出して情報提供に努めている。担当医、家族と十分な治療方針を話し合い可能であれば早期退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人にとって何が1番よいのかを本人・家族は勿論のこと医療機関、他施設などと状態の変化に応じ検討をしていく。方針は事務所に掲示、重要事項説明書内に添付している	グループホームでの看取りを要望された本人・家族には、隣接する同法人の病院と連携を取りながら看取りを行っています(職員の半数位が看取りを経験している)。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスク検討委員会を主としてマニュアル作成、KYT訓練、対応手順など掲示し、日々の業務の中で実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を主とし入居者も交えながら年2回の避難訓練の実施や様々な火災を想定とした事例で職員に危機管理を考えさせている。地域との協力体制は、運営推進会議時に町内会長に打診している	消防署の職員から緊急時に落ち着いて行動するためには、「まず自分自身が助かることで人も助けることができる」ということを教えてもらい、町内の自警消防団と連携して避難訓練を行っています。	災害時は職員だけでは利用者全員を安全に避難誘導することは難しいと思いますので、地域の方との協力関係作りを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護委員会が主となり基本的な接し方、マナー、プライバシーについてのマニュアル作成をしている。また個人が好む声かけの工夫をするように心掛けている	親しみが持てる話し言葉や個々に合わせた呼び方などプライバシーを損ねない接遇を心掛けています。又、気づいた時はその都度注意し対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけをせず選択肢を提示できる声かけをし、入居者本意で発言ができるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をやる上でも強制するのではなく本人の生活にメリハリを作りながら活気がみなぎるように接し、希望を尊重するようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容が毎月あり、外出・行事・本人希望の際には本人が気持ちよくなれるように接し、おしゃれをしていただければよい支援している。また、日々の生活でも「らしさ」が出るようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	作ること、食べることでもコミュニケーションをしっかりと取るようにし、できる人・できない人ではなく皆で場の雰囲気を共有できるように心掛けている	食事はユニットごとで作り、栄養士が一人ひとりに合わせた食事を心掛けています。行事の時の食事は事前に栄養士に伝え、特別に材料を準備してユニットで入居者と一緒に作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託栄養士による献立でバランスは摂れている。個人に合った配分をし、また、水分・食事量も記録しており状態変化にも気をつけている。食欲不振時には家族と相談し本人が好む物を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい、状態に応じて介助用具(口腔ケアシートなど)の使用。義歯は毎晩洗浄剤につける。異常時など協力歯科に連絡する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人のサイン、排泄パターンの記録・把握をし声かけ、誘導など行う。極力オシメ類は使用しないように心掛けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェック、食べ物に関しても消化がよく、便が出やすい物を献立にしてもらえるよう栄養士に提案している。また、毎日の体操や散歩などで腸の動きを活発にできるように心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤の使用、ゆず風呂など季節感のある入浴を提供している。曜日で大体の入浴者は決まってはいるが、その日の体調・気分が無理な方は別の日に変更出来る体制にしている。また、リラックスできるようにBGMをかけたりしている	入浴剤の使用等で入浴が楽しむことができるよう、個々にそった支援をしています。入浴拒否の方には無理に入浴を勧めずに清拭やシャワー浴等で清潔を保っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望があればベッド臥床、ソファで休んでいただいている。意思表示困難な方には、表情・体調などを考え適宜休息をしていただく		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別で薬剤ファイルを作成している。変更時は、ピルブックなどで随時調べ些細な様子変化も医師に伝達するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の嗜好品や能力に合わせて料理、物作りなどの支援を行っている。また、趣味や特技を生かした編み物、習字、絵画など行事道具の作成を職員と共に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候、天気にもよるが、できるだけ本人の希望を尊重し散歩・外出の支援を行っている。また、町内公園へのピクニック、スーパーでの買い物、ファミレス外食も行い、全休行事にて普段に行くことがない場所への外出も行っている	町内の公園、スーパー等、日常的に外出支援を行っています。又花見、菊花展、初詣等年に2回全員で外出を行っており、家族にも声掛けをし、家族の参加に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの管理は事務所でしているが、お金を持っていないと不安に陥る方には家族の了解のもと少額を持って頂くことで安心されている。外出した際の買い物などは職員付き添いのもと本人で支払いなどしていただく		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等からの本人への電話の受付や希望があれば電話をかけることはできる(長電話は避けて頂く)。夏、冬など自筆にてハガキを出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるようにホール内、玄関入口には毎月色々な飾り付けを入居者の方々と一緒に取り組んでいる	共用の空間は季節の飾り付けや習字の作品を掲示して、温度や湿度に気をつけて居心地よく過ごせるようになっています。また和室も設けてあり、寛げる空間があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置を行い誰でも自由にくつろぐことができるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人個人に合わせた部屋作りを心掛けています。作業レクでの作品、家族の写真、人形、植物、愛着・馴染みのある物など。	自宅の延長として自分らしく暮らせるように普段使いのものを配置して居心地良く過ごせる様工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リスク検討委員会において各階危険場所を話し合い、対策を兼ねた意識付けをしている。また本人が残存機能を活かせるように支援している		